

確率及び統計：レポート 5

氏名：津波古正輝

学籍番号：075739A

提出日：8月4日(火曜日)

母集団が二項分布が $B(n,p)$ に従うとき、サンプルサイズ N の標本平均の分布を求めよ。

問題文を簡単にすると、 $\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X^{(i)}$ の分布を求めるとのこと。

\bar{X} の特定関数を求めればすぐにわかるのだが、その為には、

1. $\sum_{i=1}^n X^{(i)}$ の特定関数

2. $\frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X^{(i)}$ の特定関数

を求める必要がある。

1. まず X の特定関数を求める。

X は二項分布の確率関数なので、

$$\begin{aligned}\phi(\epsilon) &= \langle e^{i\epsilon X} \rangle = \sum_{x=0}^n e^{i\epsilon x} P^x (1-P)^{n-x} \\ &= \sum_{x=0}^n e^{i\epsilon x} {}_n C_x P^x (1-P)^{n-x} \\ &= \sum_{x=0}^n {}_n C_x (P e^{i\epsilon})^x (1-P)^{n-x} \\ &= (P e^{i\epsilon} + 1 - P)^n\end{aligned}$$

となる。

$\sum_{i=1}^n X^{(i)}$ を求めたいのだが、二項分布の和は、どうなるのかわからない。そこで、 $Z =$ 二項分布 $(A) +$ 二項分布 (B) とすると、 Z の特性関数は

$$\phi(\epsilon) = \langle e^{i\epsilon Z} \rangle = \langle e^{i\epsilon(A+B)} \rangle = \langle e^{i\epsilon A} \cdot e^{i\epsilon B} \rangle = \sum_{x=0}^n e^{i\epsilon A} A \cdot \sum_{x=0}^n e^{i\epsilon B} B$$

より、 A と B は二項分布の確率関数なので、

$$\begin{aligned}&= (P e^{i\epsilon} + 1 - P)^n \cdot (P e^{i\epsilon} + 1 - P)^n \\ &= (P e^{i\epsilon} + 1 - P)^{2n}\end{aligned}$$

以上より、 $\sum_{i=1}^n X^{(i)}$ は $(Pe^{i\epsilon} + 1 - P)^{Nn}$ となる。

2. $\frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X^{(i)}$ の特定関数を求める。

$$\begin{aligned}\phi(\epsilon) &= \langle e^{i\epsilon \frac{1}{N} x} \rangle \\ &= \sum_{x=0}^n e^{i\epsilon \frac{1}{N} x} \left(\sum_{i=1}^n X^{(i)} \right) \\ &= \sum_{x=0}^n {}_n C_x (Pe^{i\epsilon \frac{1}{N}})^x (1 - P)^{n-x} \\ &= (Pe^{i\epsilon \frac{1}{N}} + 1 - P)^{nN}\end{aligned}$$

より、 $\frac{1}{N}$ 倍された $\sum_{i=1}^n X^{(i)}$ の特性関数は $\phi(\epsilon) = (Pe^{i\epsilon \frac{1}{N}} + 1 - P)^{nN}$ である。

求めた特性関数から分布は求められ、平均は nP 、分散は $\frac{nP(1-P)}{N}$ の分布ということがわかる。